

ノアの物語

前回の「アダムの物語」と同じくノアが語るのに耳を傾けようと思ったのですが、ノアがあまりに寡黙なのでそれは断念し、聖書が伝えるノアの物語をわたしなりにまとめてお伝えすることとします。なお聖書は＜聖書協会共同訳（2018）＞を用いています。

ノアの誕生とその時代

ノアは人類の始祖とされるアダムから数えて 10 代目になります。ノアは、父レメクが 182 歳でもうけた男の子でした。レメクはおそらく苦勞が絶えなかった人なのでしょう。その子をノアと名付けてこう言ったといわれます。

「この子は、主が土を呪われたゆえの、私たちの手の働きと勞苦から、私たちを慰めてくれるであろう。」創世記 5:29

ノアとは「慰め」という意味です。レメクはわが子ノアによって慰められることを期待し、おそらくその通りになったことでしょう。レメクはその後 595 年生きて、777 歳で生涯を閉じました。

なお創世記の記述によれば、一番の長寿はノアの祖父メトシェラで 969 歳、2 番目がイエレドで 962 歳、3 番目がノアで 950 歳、アダムは 4 番目で 930 歳です。今からすれば異様に長生きですが、とにかくはるかに遠い昔の話なので、そのまま受けとめておきます。

ノアの時代は地上に悪が満ちた時代でした。こう書かれています。

「主は、地上に人の悪がはびこり、その心に計ることが常に悪に傾くのを見て、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」創世記 6:-5

「地は神の前に腐敗していた。地は暴虐に満ちていた。神が地を見られると、確かに地は腐敗していた。すべての肉なる者が、地上でその道を腐敗させたからである。」

創世記 6:11-12

かつて神は世界を創造し、そのすべてをご覧になって「極めて良い」とされたのですが（創世記 1:31）、今や世界はまったく正反対のものになりはてていました。

主なる神はついに、地上から人とすべての生き物を一掃することを決意されました。

こうした時代に、まったく例外的に「神と共に歩んだ」(6:9) のがノアでした。神はノアを喜ばれました。ノアは「正しく、かつ全き人であった」と記されています(6:9)。

ノアは妻との間に、セム、ハム、ヤフェトという3人の息子をもうけました。

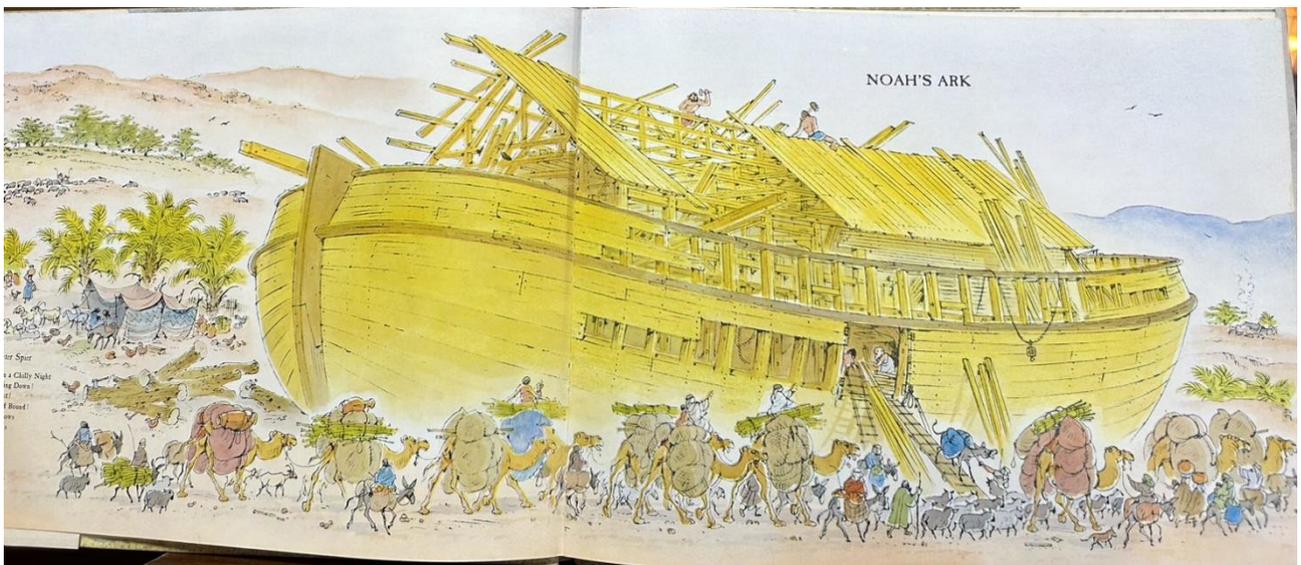
神の命令と箱舟の建造

あるとき、神はノアに言われました。

「すべての肉なるものの終わりが、私の前に来ている。彼らのゆえに地は暴虐で満ちているからである。今こそ、私は地と共に彼らを滅ぼす。」6:13

神はノアに大きな箱舟を造るように命じられました。箱舟の長さは約150メートル[本文では「300 アンマ」。アンマは肘から指先の長さ。1 アンマは45センチ]、幅は25メートル、高さは15メートルという巨大なものです。乾いた地上に巨大な箱舟を造る。なぜそのようなことをしなければならないのか。このような神の指示は、ノアには理解できなかったかもしれません。しかし彼は「すべて神が命じられたとおりに行い、そのように実行」(6:7) しました。ある人は、ここには信仰の試練とその克服があると言います。ノアとその家族は、世間の物笑いになったに違いありません。

神はその箱舟に、ノアとその妻、3人の息子とそれぞれの妻の計8人が乗り込むように、またあらゆる生き物の中から雄と雌の2匹ずつ[雄と雌を「7匹ずつ」「1匹ずつ」という記述もあります]を入れるように、と命じられました。



Peter Spier, "Noah's Ark," Doubleday & Company, 1977

大洪水

神は、ノアに箱舟に乗り込むように命じられたとき、「7日の後、私は四十日四十夜、地上に雨を降らせ、造ったすべての生き物を地の^{おもて}面から消し去る」(7:4)とされました。期間はわずか1週間。その間に、ノアとその家族は大急ぎで必要な準備をして、箱舟に乗り込みました。ノアが最後に乗り込んだとき、神は彼の後ろの戸を閉じられました(7:16)。神はノアたちを、腐敗と暴虐の世界から切り離し、保護されたのです。同時に、神が悪の世界を裁かれる厳しさを思わされます。

ノア600歳の年の2月17日、激しい雨が降り始めました。かつて神は天地を造られたとき、大空の下の水と大空の上の水を分けられた(1:7)のですが、もうその境目はなくされました。「深淵の源がすべて裂け、天の窓が開かれた」(7:11)。世界の秩序は失われて混沌に戻りました。雨は40日40夜降り続き、地上に大洪水をもたらしました。水は増して箱舟を押し上げ、箱舟は地上から浮かび上がりました。

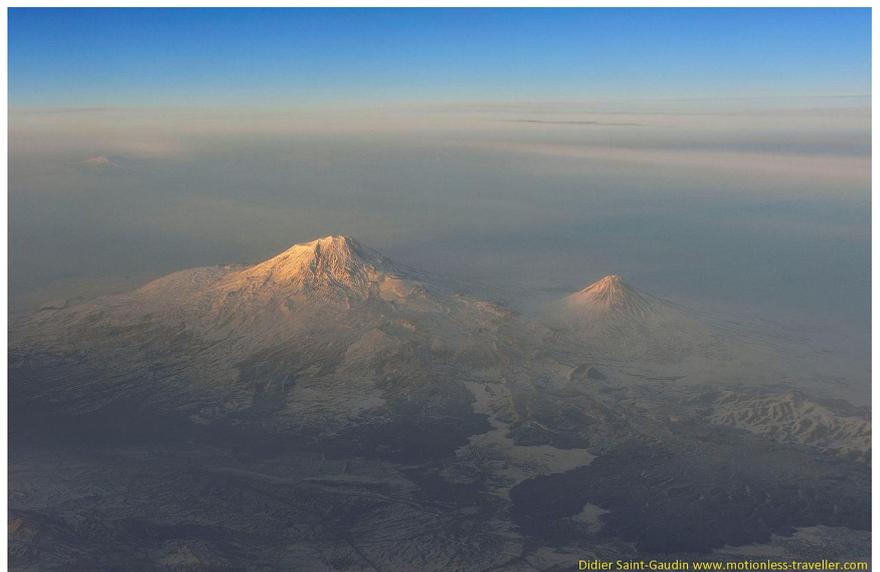
「水はみなぎり、地上に大いに増し、箱舟は水の^{おもて}面を漂って行った。水は地上でますますみなぎり、天の下にある高い山々はすべて覆い隠された。水はさらにその上、十五アンマみなぎって、山々は覆い隠された。」7:18-20

こうして人と地上の生き物すべては消し去られ、ただノアと、彼と一緒に箱舟にいたものだけが残りました。水は150日間、地上にみなぎりました。

「神は、ノアと彼と一緒に箱舟にいたすべての獣、すべての家畜を忘れることなく、地上に風を送られたので、水の勢いは収まった。また、深淵の源と天の窓が閉ざされ、天からの雨は降りやんだ。」8:1-2

「忘れることなく」は「思い起こし」とも訳されます。神はノアたちを心に深くとめ、愛の意志をもって救おうとされるのです。

水は地上から徐々に引いていき、箱舟はアルメニアのアララト山の上にとどまりました。そうしてやがて山々の頂が現れました。



アララト山

ノアは箱舟から鳩を放しました。地の^{おもて}面から水が引いたかどうかを確かめるためです。しかし鳩は足を休める所を見出せずに帰って来ました。ノアは手を伸ばして鳩を捕らえ、箱舟の自分のもとに引き入れました (8:9)。



それから 7 日待って、ノアはもう一度鳩を放しました。夕暮れに鳩は彼のもとに帰って来ました。鳩はオリーブの若葉をくちばしにくわえていました。ノアは水が地上から引いたことを知りました。

オリーブは食用になり、油が取れ、その木材は家具になるもので、生活を支える重要な木です。オリーブの若葉をくわえた鳩は、新しい世界と新しい生活の始まりの希望を象徴しているようです。

さらに 7 日たってノアはまた鳩を放しました。鳩はもう帰って来ませんでした。生きていける場所を見つけたのでしょう。

洪水の終わりと祝福

ノア 601 歳の 1 月 1 日、ノアが箱舟の覆いを取り外して見ると、地の面は乾いていました。翌 2 月 27 日、洪水の始まりから 1 年と 10 日、地は乾ききりました (8:14)。

神はノアに言われました。

「あなたは、妻、息子たち、息子の妻たちと一緒に箱舟から出なさい。あなたと共にいたすべての生き物、すべての肉なるもののうち、鳥、家畜、地を這うあらゆるものを一緒に連れ出しなさい。それらが地に群がり、地の上で子を産み、増えるようにしなさい。」 8:16-17

そこで、ノアは息子たち、妻、息子の妻たちと一緒に外に出ました。また、すべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地上を動き回るものは、それぞれの種類に従って箱舟から出ました (8:18-19)。

箱舟から出てノアが最初にしたことは、主のために祭壇を築くことでした。そして彼は家畜と鳥の中から選んで、それを焼き尽くすいけにえとして祭壇の上で献げました。主なる神は、ノアの祈りとともに立ち昇る香りを嗅ぎ、心の中で言われました。

「人のゆえに地を呪うことはもう二度としない。人が心に計ることは、幼い時から悪いからだ。この度起こしたような、命あるものをすべて打ち滅ぼすことはもう二度としない。」 8:21

神はこのように二度と命あるものを滅ぼすことはしないと心の中で誓われたのですが、同時に、人のうちに消すことのできない悪があることを知っておられました。神はそれを知りつつ、ノアとその家族を、新しい世界で生きていくように祝福されます。ここには、悪を抱えた人間をあえて引き受けようとする神の覚悟と決意がこめられているようです。

神はノアとその息子たちを祝福して言われました。

「産めよ、増えよ、地に満ちよ。」 9:1

これは神が人を創造して最初に言われたことです (2:28)。神は世界を再創造し、祝福を更新して、ノアに希望を託しておられます。

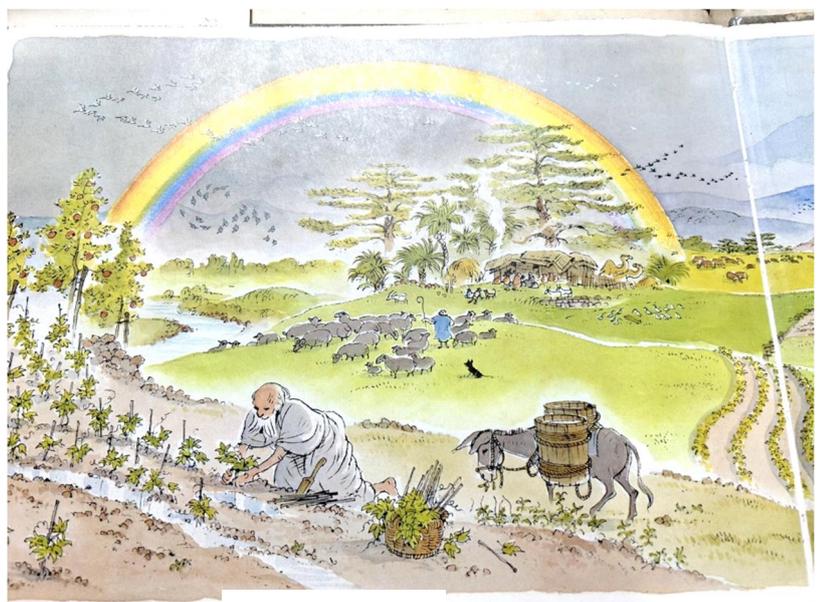
神はノアと、彼と共にいる息子たちに言われました。

「私は今、あなたがたと、その後続く子孫と契約を立てる。また、あなたがたと共にいるすべての生き物、すなわち、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣と契約を立てる。」 9:9-10

神はその契約のしるしとして雲の中に虹を置かれました (9:13)。神と人の間に、また神と生き物の間に、平和が確立されました。

「私が地の上に雲を起すとき、雲に虹が現れる。その時、私は、あなたがたと、またすべての肉なる生き物と立てた契約を思い起こす。大洪水がすべての肉なるものを滅ぼすことはもはやない。」 9:14-15

聖書はノアの思いや言葉を何も伝えていません。しかしノアは、洪水の中を通過して救い出された者として、深い感謝とともに、これからいっそう神を信じて神と共に歩むことを誓ったのではないのでしょうか。



“Noah’s Ark”

ノアの過ち

洪水から救われ、聖なる輝きを発する虹を見て、ノアは愛と正義と平和の神を経験したはずなのですが、にもかかわらず彼はその後失態を演じます。

ノアはぶどう畑を作り、その収穫を得ました。このように書かれています。

「あるとき、ノアはぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になった。カナンカナンの父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に知らせた。セムとヤフェトは衣服を取って肩に掛け、後ろ向きに歩いて行き、父の裸を覆った。彼らは顔を後ろに向けたままで、父の裸を見ることはなかった。ノアは酔いからさめると、末の息子が自分にしたことを知った。」9:21-24

この話をどう理解すべきか。解釈は多様です。わたしはこれはノアが醜態をさらした出来事だと思うのです。ノアは農夫とされているので(9:20)、「天幕」はおそらく自分の家ではありません。牧畜をする人の住まいに行き、そこで泥酔して裸になった。これは恥ずべきもので、神が望まれない姿でした。

末の息子ハムはこれを見て心に嘲り、二人の兄弟セムとヤフェトに知らせます。二人は父の裸を見ないようにして近づき、衣服をかけて父の裸を覆いました。ノアは酔いからさめると、「末の息子が自分にしたことを知って」(9:24) 激怒して言います。

「カナンは呪われ、兄弟の僕しもべとなるように」9:25

カナンはハムの息子で、ノアの孫です。なぜここで孫のカナンが呪われるのか。これは後のカナン人とイスラエルの対立が反映されているのかもしれませんが。

「末の息子が自分にしたこと」の内容は明言されていませんが、おそらく忌まわしいことだったのでしょう。しかしそうであったとしても、ノアはまず自分の失態を反省すべきではなかったでしょうか。息子に嘲られるようなことを自分がしでかして、そのマイナスが孫にも影響していく。ノアは神と共に歩む人であったのに、自分が救われたことから間違った自負を持つようになり、神の前の謙虚さを失ったのかもしれませんが。この後、彼は本来の自分を取り戻したのでしょうか。

終わりに——ノアとイエス・キリスト

新約聖書「ヘブライ人への手紙」は、ノアについて次のように語っています。

「信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄についてお告げを受けたとき、畏れかしこみながら、その家族を救うため箱舟を造り、その信仰によって世を罪に定め、信仰による義を受け継ぐ者となりました。」11:7

ノアは信仰の模範です。神と共に歩み、信じて神に従ったノアは、わたしたちが目指すべき信仰者のあり方を示しています。

また「ペトロの手紙 一」には次のように記されています。

「こうしてキリストは、捕らわれの霊たちのところへ行って宣教されました。これらの霊は、ノアの時代に箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者たちのことです。僅か八名だけが、この箱舟に乗り込み、水を通して救われました。この水は、^{バプテスマ}洗礼を象徴するものであって、イエス・キリストの復活によって今やあなたがたをも救うのです。」3:19-21

ペテロによれば、ノアの洪水は洗礼を象徴するものだということです。洗礼の水は、わたしたちが古い人としておぼれ死に、新しい人としてよみがえらされることを示します。

ここで注意したいのは、キリストが、ノアの洪水のときに救われなかった「**捕らわれた霊たちのところへ行って宣教された**」と言われていることです。イエス・キリストは、救われなかったと見える人をも救いに行かれるのです。

ノアは洪水の後、350年生き、その生涯は950年だったとされます（創世記9:28）。

洪水の後のノアは、彼について言われた「**正しく、かつ全き人**」（6:9）を貫くことはできませんでした。彼の過ちは、家族、子孫に好ましくない影響を残したように思われます。旧約聖書・創世記のノアの物語は必ずしもハッピーエンドではないのです。人間の現実を描き出すのが聖書の物語である、と言えるでしょう。それでも契約に忠実な神は、ノアの神であり続けられます。ノアを見捨てることはけっしてないのです。

そしてこのノアとその子孫のため（つまりはわたしたちのため）に、イエス・キリストがおられます。イエス・キリストは、わたしたちの過ちを引き受け、わたしたちが受けるはずの裁きを引き受けて十字架に死に、復活してわたしたちを永遠の命に生かしてくださるのです。

(2022/10/19 井田 泉)